

特集3 「国際学部のSDGsの取り組み」

UU3S (Utsunomiya University Students, SDGs, Solution) プロジェクトの取り組み

高橋若菜

高橋研究室3年生：田所梨沙・杉浦理子・濱詩織・廣村美優・藤田晋之祐・齋藤涼
大学院生：楊寒 (M1)・張喬 (D2) 研究生：閻子瑩

UU3Sプロジェクトの概要

気候危機、熱帯林破壊、海洋プラスチック問題、化学物質による環境汚染、途上国の公害・環境汚染など、世界規模で環境問題が深刻化している。このため、2015年のSDGsおよびパリ協定の採択、2018年の海洋プラスチック憲章などに象徴されるように、脱炭素社会や循環型社会形成は、国際社会において、待ったなしの政治課題となった。一方で、国内・地域社会においては、災害の激化、生態系劣化や里山の荒廃、エネルギー問題、少子高齢化問題など、多様な問題に直面している。

そこで、以上の問題群を、個別ではなく多目的、かつ同時的に対処していく方策として、今日注目されているのがローカルSDGs/地域循環共生圏の考え方である。SDGsの17ゴールは不可分とされる。グローバル・地域の課題も、相互に複雑に絡み合っている。そこで、「パートナーシップ」を通じて「自立・分散型の社会」を推し進め、複数の問題を「同時解決」しようというのが、ローカルSDGsのめざすところである。ここでは、「各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用」することや、「地域の特性に応じて資源を補完し支え合うこと」により、「地域の活力が最大限に発揮されること」が期待されている（第五次環境基本計画、2018年4月閣議決定）。

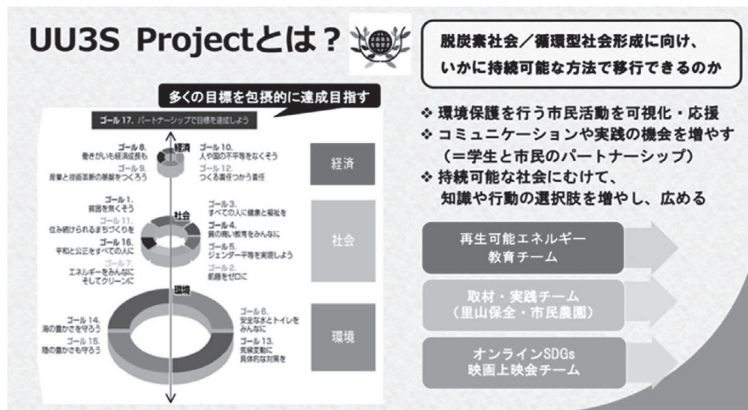
栃木県宇都宮市およびその周辺地域は、都市部と農村部が混在しており、ローカルSDGsの推進には好ましい地理的条件を抱えている。ま

た、地域循環共生と整合するような活動も進行中である。本事業の連携団体となるNPO法人うつのみや環境行動フォーラムも、宇都宮市内を拠点に、そうした活動を行う一環境団体である。2004年の設立以来、里山保全、生物多様性保全、再生可能エネルギー調査や環境教育など、多面的な取り組みが行われてきた。ところが、当NPOを含め、各個別に進行中の取組みの多くは、資金的制約や人手不足・高齢化、それゆえの情報発信能力の限界などに直面している。それゆえ、個別の取組みが、面的に広がるのが容易ではない状況が続いてきた。

他方、これまでの調査研究から、SDGsや脱炭素社会に向けて、あるいは地域の課題解決に向けて、行動したいと考える市民や学生が、実は少なくないことがわかっている。ところが、具体的な行動に踏み出せない、あるいはその選択肢を知らない、またはそうした機会がない学生や市民も多い。

以上から、UU3Sプロジェクトでは、大学とNPO、個別の取り組みを行う市民など、多様なステークホルダーのパートナーシップを創出し、実践や相互学習を行い、問題構造の把握や具体的な行動についての見える化や情報発信を通じて、地域循環共生圏を面的に広げることをめざしてきた。

そこで、NPOや市民活動に学生が参加し、実践的な体験を積み重ねると共に、情報の可視化や改善に向けた提言を行うことを目指した。これにより、市民や学生、その他のステークホル



ダーに対して、ローカルSDGsへの多様な参加や実践の機会を提供することを目指した。

具体的には、①再生可能エネルギー教育、②里山保全・市民農園、③オンラインSDGs映画上映会の実施、の3つの分野で実践・調査活動を行ってきた。

① 再生可能エネルギー教育

再生可能エネルギーは、脱炭素社会形成に不可欠な要素であることは論を待たない。この点、NPOうつのみや環境フォーラムの再生可能エネルギー部会では、エネルギー診断士など企業の第一線で働いてきた方々が、家庭における再生可能エネルギーの可能性を調査し、小中学生に対して気候変動や再生可能エネルギーについて教える「出前授業」を行なうなど、再生可能エネルギーの普及啓発活動に腐心してきた。

高橋研究室の学生たちは、この出前授業にサポート役として参加しながら、問題発見や課題解決に努めた。今後は、NPOと地球環境政策論受講生と共同で、宇都宮市の持続可能なエネルギーに関する報告書作成も予定している。



再生可能エネルギー出前講座に参加した学生の声

斎藤涼：私が参加した出前授業の内容は「地球温暖化のはなしとクイズ」、「再生可能エネルギーの実験体験」、そして「太陽熱風車の工作体験」でした。小学生の多くはやはり実験や工作ではとても楽しんでいましたが、地球温暖化の話は少し難しかったようでした。実際に事後アンケートでも半数以上が難しかったと答えていました。この点に関しては、参加した宇都宮大学の学生からも改善案があがったため、再エネ部会の方々も子どもたちにもっと興味を持ってもらえるように試行錯誤していらっしゃいました。多くの小学生にとって温暖化の話が少し難しかった一方で、一緒に参加されていた保護者の方が地球温暖化の話に対して興味を示していた印象でした。実際に親子で参加することで、家庭の事を決定する親世代に対してもアプローチができ、家庭内で話題にあげやすかったり、認識の共有がしやすくなると強く感じました。環境問題の解決のためには、私たちが環境について学習するだけでなく、様々な形で発信していかなければなりません。実際に出前授業に参加させていただいて、その発信の一つとして出前授業はとて有意義であると感じました。

② 里山保全・市民農園

都市緑化、里山保全、都市農園など、都市における自然を保護・保全・再生することは、地域循環共生圏形成において要となる活動である。ヒートアイランド現象の緩和、CO₂吸収源としての脱炭素社会社会への貢献に加え、災害対策、大気汚染の改善、地産地消、コミュニティ形成など、幾重にも便益をもたらさう。

この点、NPOうつのみや環境行動フォーラムの里山保全部会は、日本野鳥の会栃木支部と協働し、宇都宮市みずほ地区における里山保全活動に長年取り組んできた。具体的には草刈りや清掃など里山整備活動を行い、生物多様性維持や気候変動対策、子ども達の学び・遊び場作りなど、多面的な機能維持に努めてきた。

里山保全活動に参加した学生の声：

濱 詩織：私は、里山保全活動の経験はなく、今回が初めてでした。その中で一番印象に残ったことは、多世代交流です。私が参加した日には、小さな子どもや小学生から私たち大学生、現役世代の方々、さらには現役を退いて新たな人生を歩まれている年配の方まであらゆる世代が集まり、活動を行いました。思い返してみると、コロナ禍ということもあるかもしれませんが、ここまで幅広い世代が集まって活動するのは私にとっては家族以外では久しく、人と話す機会も減っていたため、とても貴重な機会でした。活動中は、里山に関することからたわいのない話まですることができ、また活動後には焚火を囲んで焼き芋を食べ、自然と和やかな雰囲気になり、とても楽しかったです。最後に、宇都宮市内にこのような自然豊かな場所があることを知って驚きました。一方で、時間が経つと草木は育つことに加え、台風などの影響から里山の状態は常に変化するため、人の手が入ることで生物多様性が保たれており、里山保全活動の意義を実際に見て認識することができました。

楊寒：20年以上前からすでにスタートしていたみずほの里山保全活動は、今もなお活動が継続されています。UU3Sプロジェクトの一環として、2021年の6月から活動が始まり、私はうつのみや環境行動フォーラムの方々、野鳥会の方々と一緒に、里山保全活動に4回ほど参加しました。今まで地域の活動に参加したことがない来日4年の留学生である私にとって、里山保全活動のような地域住民として主体的に活動し、地域に溶け込んで交流するイベントに参加することは、貴重な体験でした。初めて、「私は宇都宮に生きている」と感じました。大学キャンパスからたった6kmのところ、こんなに立派な森があったことにはほんとうに驚きました。夏には森に光が差し込まないほど茂った草を刈り、秋には落ち葉を集めて焚き火で焼き芋作ってみんなで食べて、自然と触れ合いながら過ごしていることを確実に感じました。幼いころ田舎で過ごした子ども時代のことを思い出させてくれる場所。このような自然いっぱいのみどり森には、子どもたちのための良い環境がたくさんあります。自然との触れ合いが減っている現代の子どもたちにとって、このような里山は最高の遊び場であり学び場です。より多くの子どもが里山に来てくれることは、今もこれからも里山がよりよい状態で維持される力にもなります。地域の豊かな環境とともに、将来の世代に引き継いでいくことは、今を生きている私たちにとってとても重要な責務だと感じます。

藤田晋之佑：みんなが使う里山ですが、それは誰かが整備をしないと成り立ちません。そのため、私や一般の参加者の方、NPO法人の方がこの活動に参加し、様々な活動を行いました。私が参加した秋には、栗のイガ拾いや落ち葉拾い雑草を狩りました。他にも季節ごとに違う活動を行っており、山の四季の変化を実感しながら楽しく活動を行えました。



一方、NPOうつのみや環境行動フォーラムの情報部会のメンバーの一人は、高齢化による耕作放棄に直面した農地を活用した市民農園にも参加している。ナザレファームと呼ばれるこの市民農園では、子育て中の女性等の手によって多様な野菜や米の有機栽培が行われており、生物多様性の維持や水質汚染の防止、地産地消

の推進、高齢者や女性の活躍促進によるコミュニティ活性化など、複合的な便益を生み出している。

高橋研究室の学生たちは、里山整備活動や、ナザレファームにおける取り組みに、実践的に参加しながら、地域循環共生圏としての意義や課題・課題解決方法などを模索してきた。

市民農園活動に参加した学生たちの声：

田所 梨沙：私は市民農園「ナザレファーム」で、有機栽培で育てる野菜の管理や収穫体験、意見交換会、取材などを行っています。フィールドワークではご高齢のTさんや、幼いお子さんを持つお母さんたちの活動に参加させていただき、地域の持続可能性や有機農業の効果・課題などへの理解を深めています。普段購入する野菜の多くは大量の化学肥料や農薬が使われていますが、私たちは気づかぬうちに体に取り込んでいます。さらに農作物の長距離輸送時には大量のCO₂が排出されており、温暖化を進めています。有機栽培を行う市民農園での活動は、このような農業の課題の解決とコミュニティ内からの持続可能な社会形成を目指しています。特に印象に残ったことは、取材の中でナザレファームの皆さんが「夏の暑い日も朝早くから草取りを行った」と話をしていたことです。農薬を使わないため短期間で非常に多くの草が生えてしまいます。しかし家族や地球の未来を真剣に考え、大変な中でも作業を続ける姿は非常に素晴らしいと思いました。私は活動を通して有機栽培や地元の農作物を購入することで、CO₂の排出量の削減に私たちも貢献できると学びました。また農業は手間や労力のかかる大変な側面のみならず、多くの可能性に溢れており、持続可能な社会形成に不可欠なものだと気づきました。皆さんにも「一人一人の意識の変化が少しずつ環境をより良くする」ということを意識して行動して欲しいです。

杉浦 理子：体を動かしながらたわいもない会話をしたり、見たことのない野菜をみつけ、気分転換にもなるナザレファームでは「食の大切さ」を学びました。日常生活の中で、旬ではない野菜や一年中同じ野菜が陳列されていること、添加物や偏食などが子どもの発達障害との関係性があることなどを知り、いままですらなんとなく選択していた食に対して改めて考え直すきっかけになりました。子どもやお孫さんたちに安全な食べ物を作りたいとおもい、そこからスーパーには売っていない作物や自分たちで作りたいものを提案して農園がつけられたそうです。ファームではどうしたら美味しく食べてもらえるか考えてつけられたレシピや、野菜の保存方法について共有しており、一人暮らしの大学生にはとても助かるアドバイスを頂けます。意見交換会では、ファームの方が「農薬をつかっていること全てが悪いということではなく、市民農園や野菜をつくっていることが、貧困や食品ロスなど様々な問題があるなかで、その時・その人が何をを選ぶかの選択を与えられたらいいな。」とお話をされていました。食の大切さを痛感しながらも、質だけを求めて高い食品を買うことには限界があるし、有機栽培、添加物はやめよう!などと決めることや全てを変えることは難しいと思いますが、食に対しての選択肢が増えれば、その他のバランスを考慮しながら取捨選択することや、今の自分のできる範囲で問題に向き合うきっかけにつながるのではないかと思います。



③ SDGsオンライン映画上映会

高橋研究室では、2020年度に引き続き、学生主体のオンラインSDGs映画上映会を開催した。コロナ感染拡大の状況下、学生や市民の方々にSDGsを学ぶ場を提供することを目指した取組である。上映権の契約は、栃木県大学地域連携プロジェクトの助成を得て教員側で行い、18名の学生たちが、映画の選定や、企画運営の全般を担った。2021年度に取り扱った映画

は、「プラスチックの海」「Tomorrow～パーマネントライフを探して」「グリーン・ライエコの嘘」である。各回、映画鑑賞後、学生たちが映画解説や私たちができることについての発表し、グループ・全体議論へ繋げた。また、事前・事後アンケートを行い、参加者の意識の変化を確認し、映画会の効果の検証も行った。

宇大生による 2021年
オンラインSDGs映画上映会 第1弾

第1回
7月25日(日)
13:00-18:20

第2回
7月31日(土)
13:00 18:20
※同日と同一の内容



海がプラスチックで汚れている。
私たちには何ができるのだろうか。

A PLASTIC OCEAN
WE NEED A WAVE OF CHANGE
プラスチックの海

PLASTIC OCEAN LIMITED
CINEMA PRODUCTION
ASSOCIATION FOR POLYMER FOUNDATION
BY THE OCEAN FOUNDATION
PRODUCTION PARTNER: THE OCEAN FOUNDATION
PRODUCTION PARTNER: THE OCEAN FOUNDATION
PRODUCTION PARTNER: THE OCEAN FOUNDATION

宇大生による
2021年
オンラインSDGs映画上映会 第2弾

日時
10月24日(日)
13:00 18:20



Tomorrow
パーマネントライフを探して

A film by
Cyril Collet
Melanie

「Tomorrow」は、持続可能な未来を築くためのヒントを探るドキュメンタリー映画。地球の未来を担う若者たちが、持続可能な未来を築くためのヒントを探る。地球の未来を担う若者たちが、持続可能な未来を築くためのヒントを探る。

宇大と宇都宮創造都市
研究センターの学生
たちのコラボによる

SDGs映画上映会
@田川ブリッジシアター

日時 2021年
11月13日(土)
17:00 19:00



HPO法人 ACE 設立15周年記念 ドキュメンタリー映画 ACE

グリーン・ライエコの嘘
グリーン・ライ エコの嘘

環境に優しい
サステナブル
正しいの悪い言葉の
裏側に隠された
残酷な現実を知る
ドキュメンタリー

「環境に優しい」商品のヤバイ現実

環境に優しい
サステナブル
正しいの悪い言葉の
裏側に隠された
残酷な現実を知る
ドキュメンタリー

「環境に優しい」商品のヤバイ現実

環境に優しい
サステナブル
正しいの悪い言葉の
裏側に隠された
残酷な現実を知る
ドキュメンタリー

宇大生による 2021年度
オンラインSDGs映画上映会 第3弾

日時
2022年
1月23日(日)
13:00-18:00



THE GREEN LIE
グリーン・ライ エコの嘘

環境に優しい
サステナブル
正しいの悪い言葉の
裏側に隠された
残酷な現実を知る
ドキュメンタリー

「環境に優しい」商品のヤバイ現実

環境に優しい
サステナブル
正しいの悪い言葉の
裏側に隠された
残酷な現実を知る
ドキュメンタリー

プラスチックの海
人類はコロナと戦い、
海はプラスチックと戦う。

「Tomorrow」
パーマネントライフを探して
新時代を生きる、暮らしの変革

「グリーン・ライエコの嘘」
ちよっとまって！
その商品本当にエコですか？

「グリーン・ライ エコの嘘」
ちよっとまって！
その商品本当にエコですか？

オンラインSDG映画上映会を運営した学生の声：

廣村 美優：私は、「オンラインSDGs映画上映会」の活動を行っています。昨年は、2度のオンライン開催と1度のオンサイト開催を実行することができました。コロナ禍ならではの活動として、昨年度から続けている上映会ですが、今年度の目標としていたオンサイトでの上映会が開催できたことは、私個人としても本プロジェクトとしても、大きな一歩になったと感じています。また、栃木県大学地域連携活動支援事業の中間報告会に参加させて頂いた際に、お声をかけてくださった宇都宮創造都市研究センターの皆様との共同運営によるオンサイト上映会になりました。他大学との交流や地域への還元という点において、新たなことにチャレンジできたのではないかと嬉しく思っております。上映会では、リーダーという立場から関わらせていただいたことで、人として成長するきっかけになったと感じています。上映会を重ねる度に、この会が参加者にとっても私たち運営側にとっても、意見を共有し、より深い学びへとつなげる有意義な場であって欲しいという思いが大きくなっています。SDGsへの関心を高めること、知識共有・意見交換の場を作ること、生活や環境問題への考えを見直すきっかけにすること。私たちが本プロジェクトにおいて大事にしていることです。このことを忘れずに次の上映会の準備に励んでいきたいと思えます。

藤田 晋之佑：私は主に「SDGsオンライン上映会」のプロジェクトに携わっています。今年度は3回のオンライン上映に加え、宇都宮を流れる「田川」の橋脚に映画を投影する「田川ブリッジシアター」で、他大学の生徒とも協力し、対面の映画会を行いました。昨年度から行われている「SDGsオンライン上映会」ですが、今年度初めて参加した私は、様々な困難に直面しながら取り組みました。オンライン上映会や田川での上映会のミーティングではZOOMを用いてコミュニケーションを取ったのですが、スタッフ間の予定が合わない場合が多く、上映会で使う資料を作成するには長期間にわたる話し合いが必要でした。また、参加者を呼び込むための広報にも挑戦しました。他の学生が参加している授業で、上映会の紹介も行い、宇都宮で行われている「宮ラジ」にてラジオ出演し、映画会の日程や内容を紹介しました。特にラジオ出演では、一発勝負の難しさを感じ、相手に伝わるためには、話に抑揚をつける必要があるなど、学ぶことも多くありました。

オンラインSDG映画上映会に参加した学生の声：

閻 子瑩：私はゼミを通して2021年のオンラインSDGs映画上映会 第2弾に参加して、『Tomorrow～パーマネントライフを探して～』を見ました。申込書の提出から上映会の参加まで、全てネットで連絡する形式を初めて体験したので、新鮮な感じがありました。また、地球環境問題に関心を持っていたので、映画そのものの内容に興味があり、上映会に参加しました。この映画では、政治・経済・教育・農業など様々な分野で、世界各地の人々が、より持続可能な社会を築くためにいろんな取り組みをしていることを紹介していました。上映会に参加することで、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念をより深く理解できるようになりました。自宅で一人ZOOMを通して参加しましたが、一緒に参加する人が多くて、取材対象も世界各地の人たちです。言葉にするのは難しいですが、みんなで協力する力を感じました。その後、ゼミで上映会を振り返ったとき、先輩が上映会についての事前アンケートと事後アンケートの集計結果を共有してくれました。その比較の結果から見ると、映画を見て、人々の観念や行為に明らかに影響を与えたことがわかりました。同じ質問に対して、前後で違う答えを出していたからです。今回の上映会をきっかけに、私も自分の住んでいる地域における再生可能エネルギー、環境教育、民主政治などの話題に以前より注目したいと思えます。とても面白くて忘れられない体験でした。



<事前事後アンケートの結果比較：張喬>

私は、事務局として、毎回の事前事後アン

ケートのサポート役をしました。学生スタッフたちと先生が話し合って作ったアンケートを、

オンラインアンケートサイトのSurveyMonkeyに掲載し、またアンケート結果の集計も行いました。この作業を通し、オンラインSDGs映画上映会の教育啓発の効果について実感しています。ここでは、2021年7月23日に行った「プラスチックの海」と10月24日に行った「Tomorrow～パーマネントライフを探して」の事前事後アンケートの結果をごく簡単に、紹介します。

映画「プラスチックの海」では、便利なプラスチックが生んだ代償をデータを使って解説したのちに、私たちができることとして、どのような商品を選ぶべきなのか、どのような働きかけが社会にできるのかについて発表し、議論を深めました。その結果、プラスチックの悪影響についての問題認識も深まり、「改善できると思うし、行動を起こしたい」という回答割合が大幅に増えました。

映画「tomorrow」は、「気候変動と種の絶滅、

プラスチックの海 WSでの提案の一例

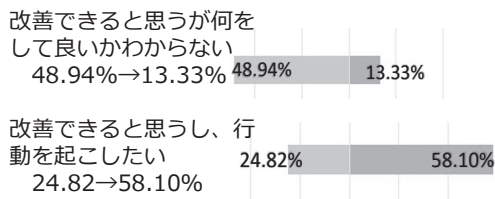
働きかけよう！
プラスチックバンクに参加しよう！
Act in the Service of Love
plasticbank
https://plasticbank.org/act

アメリカでよく見るウォーターサーバー（WS）
奈良女子大付属中等教育学校でも...
38人の有志で
脱プラに向け自主活動団体結成
→WSの設置を学校に提案
→学校はWSの設置を決定！

- ・PBIに寄付する
- ・PBが販売するグッズを購入する
⇒日本にないから国際協力ができる！

他にも世界でどんな取り組みが行われているか探してみましょう！

<事前・事後アンケート比較>



謝辞：

UU3Sプロジェクトは、多文化公共圏センターとの共催で行われたものであり、NPO法人うつのみや環境行動フォーラムの三宅徹治氏、塚原綾子氏、今出善久氏の全面的な協力を経て実現できました。映画上映会は、NPO法人とちぎユースサポー

食・水・エネルギーの奪い合い。対立の激化、戦争と暴力の負の連鎖が始まり」、「人類は絶滅する恐れがある、それも決して遠くない未来に」とする「ネイチャー」雑誌論文の警告から始まる映画でした。この映画では、農業、エネルギー、経済、民主主義、教育、といったトピックそれぞれの中に社会を変革するヒントがあることが紹介されました。

そこで、ローカルなコミュニティやコミュニケーションを通して、未来を変えるための様々な提案を学生たちが行いました。事前事後アンケートでは、ローカリゼーションや地産地消の重要性を認識し、これからローカル化の発展を促進するために、「地元のお店に行く」とか「地元の企業のものを買う」等の意識変化が確認できました。さらに政治への関心も大幅に増えたことがわかりました。

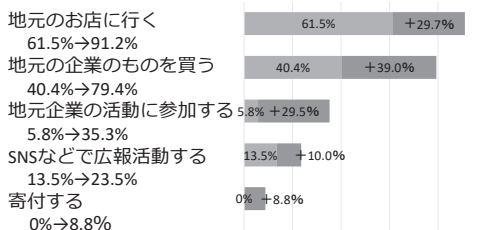
Tomorrow WSでの提案の一例

食生活でできること
ローカルフードを選ぶ！
フードマイレージ
食物の輸送量×距離
食料を育てるためのエネルギー
常備量も高い！

食生活に必要な食品の輸送量 (kg)
食品の種類別輸送量 (kg)
代替品の輸送量

自分で作ろう！
市民農園の活用
栃木県内に10件！
家庭菜園
プランター栽培

<事前・事後アンケート比較>



ターズネットワーク、宇都宮市SDGs人づくりプラットフォームからも後援頂きました。また、本プロジェクトは、栃木県大学地域連携事業、および、日本学術振興会科研費(18KT0001)の助成を得て実施されています。この場を借りてお礼申し上げます。